

新春特別番組

きょう 3 日に放映

時間午前 7 時半～ 8 時

放送局 B S N 新潟放送

新潟から世界へ発信

市民芸術文化会館開館記念ミュージカル 「シャンポーの森で眠る」

市民と、現在一線で活躍中のスタッフや役者が一緒になって作品を創り上げ、新潟から全国に向けて発信していこうというミュージカル「シャンポーの森で眠る」。昨年 10 月 22 日に開館した市民芸術文化会館のオープニング事業として、12 月 17 日から 20 日の 4 日間に渡り上演され、興奮と感動が劇場を包み込んだ。

超一流のキャストとスタッフと共に
作曲・音楽監督 宮川彬良
作詞 岡本おさみ
台本 菊池准
演出 栗田芳宏
振付 名倉加代子
内堀照子
振付指導 内堀照子
歌唱指導 北川潤
千田稔
装置・衣裳 朝倉慎
照明 塚本悟
舞台監督 やまだてるお
プロデューサー 笹部博司
出演 久野綾希子
岸田智史
吉田鋼太郎
公募によるキャスト
地元スタッフが



5・6月

オーディション



歌唱力が高い評価を得てファデット役に決定した太田かおりさん

オーディション応募者は247人

5月30・31日にオーディションを実施。参加者のレベルが予想以上であったため、絞り切れず、6月13日に2次審査を行った。約80人がオーディションに合格し、太田かおりさん（東京都在住・五泉市出身）がヒロインのファデット役を、横木美智代さん（酒屋町）が舞台の重要なカギを握る村の娘マドレーヌ役を射止めた。

太田かおりさん（左）と横木美智代さん（右）



ヒロイン決定

自分の日記をもとに曲を作ろうとする「男」。日記が呼び起こしたのは、彼が心の奥に封印した過去だった。
厳格な父、慈しみ深き母、双子の弟、働き者の村人たちに囲まれ、のどかな農村で過ごした日々。「シャンポー」は、大好きな双子の弟ランドリーと一緒に遊んだ森だった。
青年となった男は、村外れに住む娘・ファデットを愛するようになるが、その愛は報われなかった。ランドリーと結ばれたファデット。ふたりの婚礼の翌日、男は村を離れ戦場へ向かう、死を望んで。
戦争は全てのものを男から奪い去ってしまった。故郷も愛する人々も、戦火に飲み込まれた。ただひとり生き残ってしまった男の周りを、思い出の炎が「鬼火」となってゆらめく。

7・8月 夏の稽古



台本を片手に1シーン、1シーン創り上げる

演出の栗田芳宏さんや、作曲・音楽監督の宮川彬良さんらの指導により、毎週土・日・月曜日に音楽文化会館などを利用して、歌、踊り、芝居の稽古が行われる。



演出の栗田芳宏さん（左）と、作曲・音楽監督の宮川彬良さん（右）

9・10月

振付の内堀照子さんの指示が飛ぶ



ファデット役が2人に配役の変更があり、ファデットの少女期を太田かおりさんが、成年期を名和嘉子さん（幸町）が担当することになる。

市民芸術文化会館で練習開始



ファデットの成年期を担当することになった名和嘉子さん



練習用に作製した舞台装置だが、装飾を施し、本番でも使用することに

10月からは水曜日も練習日に加わり、市民芸術文化会館のスタジオや劇場を利用して稽古が続く。鬼火役が持つトーチなど小道具や、舞台装置の製作も進む。

小道具を入れるポケットの位置を動きやすいように調整する



12月

衣裳が完成

公募した衣裳スタッフの手で、市民から提供された古着や毛布が、舞台衣裳として新たな命を吹き込まれる。

プロ・アマそろって練習

久野綾希子さん、岸田智史さんが稽古に合流する。地元キャスト・スタッフの仕上げ具合は、プロの役者が「乗せられる」と語るほど。作品の完成度を高めるため、より一層熱のこもった練習が続く。



久野綾希子さん、岸田智史さんが稽古に合流する

生演奏が加わる

作曲・音楽監督の宮川彬良さんのピアノや、新潟で活躍するアーティストたちによるフルートやバイオリンなどの生演奏が加わり、作品の情感を盛り上げる。

美しいハーモニー



息の合った演技



本番まで1カ月 熱気いっぱいの稽古

本番まで1カ月となり、小道具などを用いた稽古に熱が入る。出演者たちが一丸となり、素晴らしい舞台を創り上げようと、気迫に満ちた練習が続く。

11月



台本の変更によりカットされたのどかな農園での幻の1シーン



生き生きとした歌声